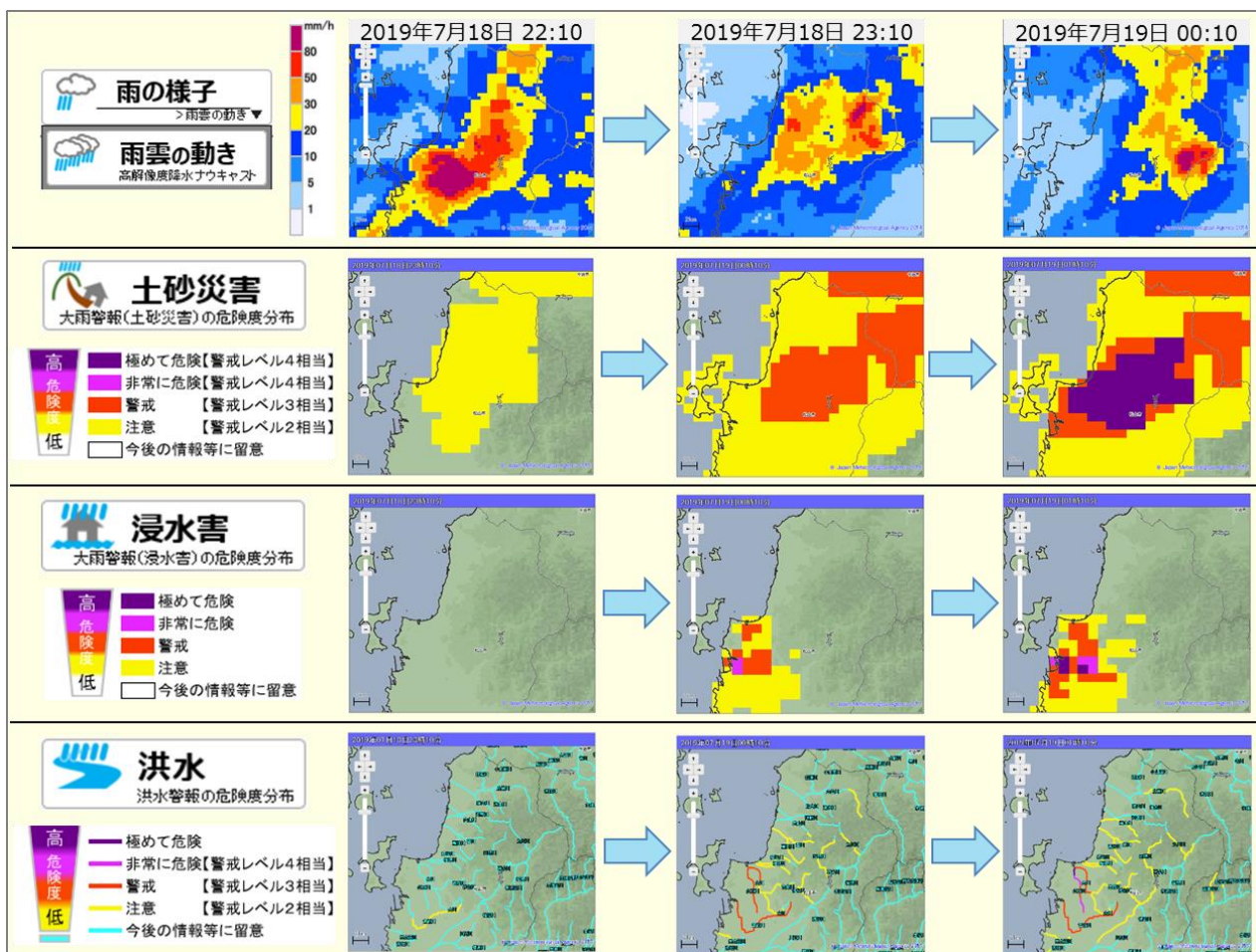


【7月の気象】

- ▷ 7月は、太平洋高気圧が次第に勢力を増し、四国地方は梅雨明けを迎えます。四国地方における梅雨明けの平年値は7月18日ごろです。
- ▷ 梅雨末期には、しばしば大雨が降り、浸水や洪水、土砂崩れなどの災害が発生します。特に、この時期に台風が日本の南海上にあると、たとえ遠く離れていても、台風からの暖かく湿った空気が前線に向かって流入し、前線の活動がさらに活発化するため、大雨災害への警戒が特に必要となります。
- ▷ 梅雨明け後は太平洋高気圧に覆われ、晴れて暑い日が続くことが多いので、農作物の管理や熱中症に注意が必要です。気象台では、当日または翌日の最高気温が35℃以上になることが予想される場合は「[高温注意情報](#)」を発表し、熱中症への注意を呼びかけます。

【気象用語】「危険度分布」とは

危険度分布とは、お住まいの地域における、[土砂災害](#)、[浸水害](#)、[洪水害](#)の3つの大雨災害の危険度をリアルタイムでお知らせするものです。さらに、速やかに避難が必要とされる警戒レベル4に相当する「非常に危険」などといった危険度の高まりをプッシュ型でお知らせする『[『危険度分布』の通知サービス](#)』もあります（利用にあたっては事業者への申し込みが必要）。平时に県や市町の防災ハザードマップ等で地域の災害リスクを確認し、土砂災害が発生するおそれのある地域、浸水害が想定される地域、中小河川を含む河川の氾濫によって洪水害が予想される地域にお住まいの方は、対象となる災害の危険度が警戒レベル3相当以上となった場合には、避難の準備など避難行動を開始してください。



2019年7月18日夜から19日未明の局地的な非常に激しい雨により、松山市で宮前川が溢水し、床上浸水4棟、床下浸水46棟、道路冠水のほか、土砂崩れ4か所などの被害があった。上図は、この日の18日22:10から19日00:10までの1時間毎の雨雲の動きと、3つの大雨災害の危険度分布を示したもの。松山市付近に次々と発達した雨雲が流れ込み、時間を追うごとに非常に危険（うす紫）や極めて危険（濃い紫）の地域や流域が出現していることがわかる。

雨雲の動きや危険度分布のご確認は下記リンクをご利用ください

[雨雲の動き（高解像度降水ナウキャスト）](#) [大雨警報\(土砂災害\)の危険度分布](#) [大雨警報\(浸水害\)の危険度分布](#) [洪水警報の危険度分布](#)